

1学期終業式の講話(夏休みを迎えるにあたり)

未来へつながる夏に



1学期終業式
令和8年7月17日

1年生 中学生から高校生へ

今日は、1学期の終業式として夏休みを迎えるにあたって、それぞれの学年にお話を用意しました。せっかくオンラインなので、いつものように紙芝居でいきましょう。

ちなみに、それぞれの学年向けに作ったのですが、どの学年にも通用する話ばかりになってしまいました。

まずは1年生から。4カ月前に入学してきた皆さんは、ちゃんと高校生になれたでしょうか。やっていることが、中学生のままではずいずいですね。1年生には「大きな岩と小さな岩」のお話です。

「大きな岩と小さな岩」

「大きな岩と小さな岩」

ガラス瓶に大きな岩を詰め込む

「この瓶は満杯か？」



ある日、大学教授が学生の前で透明なガラス瓶を取り出し、大きな岩を詰め込みます。そして、質問しました。

「この瓶は満杯ですか？」

教室中の学生たちは「はい」と答えました。

「大きな岩と小さな岩」

バケツ一杯の砂利を詰め込む

「これを逆の順でやったらどうなる？」



そこで、教授は教壇の下からバケツ一杯の砂利を取り出して瓶の中に流し込みます。瓶をゆすりながら、岩と岩の間を砂利で埋めていきます。

そしてもう一度聞きます。「この瓶は満杯か？」

学生たちは答えに困ります。

「何が言いたいかわかりますか？」

「では、今の工程を逆の順で行ったらどうなりますか？」

「大きな岩と小さな岩」

小さなものから入れたら
大きな石は入らない。

意外にも、
このあたり前のことが
できていない人がある。



「大きな岩と小さな岩」

瓶の容積＝自分の人生の持ち時間

自分にとって大事ではないもの
で時間を埋めていくと、

大事なものに割くべき時間を
失ってしまう



「大きな岩と小さな岩」

同じ46日間で

成長のためにたくさん
のことができた人

気づいたら
ほとんど何もできなかった人

あなたはどっち？



2年生 高校生として主体的行動

「種まきと収穫の法則」

「大きな岩を先に入れない限り、それが入る余地は二度とない。意外にもこの当たり前のことがわかっていない人がたくさんいます。」

瓶の容積は、例えるならば「自分の人生の持ち時間」のようなものです。

では、君たちの人生にとっての“大きな岩”とは？
誰もが限られた時間しか持っていない。自分にとって大事ではないもので時間を埋めていくと、自分にとって大事なものに割くべき時間を失ってしまう。結果として大事なものを手に入れることができないまま人生を終えることになる。

今日から46日間の夏休み。同じ時間が全員に平等に与えられている。

普段何気にSNSで膨大な時間を浪費している人は、まさに小さな砂利で瓶を埋めているようなものの。

同じ時間を自分の成長のために活用できる人か、それとも浪費してしまう人か？
あなたはどっちでしょうか？

続いて、2年生。高校生活の折り返し地点ともなると、流されているのではなく、主体的に価値のある行動をとってほしいものです。

2年生には「種まきと収穫の法則」のお話をしましょう。

「種まきと収穫の法則」

荒れ果てた畑で作業をしている老人に

「いったい何の種を播いている
のですか？」

「種を播いているのではない。
収穫をしているのだ」



荒れ果てた畑で作業している老人がいました。遠くでその様子を見ていた通行人が不思議に思いたずねました。

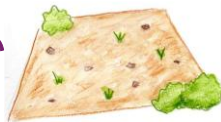
「あなたはこんなところでいったい何の種をまいているのですか？」

「種をまいているのではない。収穫しているのだ」

「種まきと収穫の法則」

「収穫？ 作物はどこにも見当たりませんが…」

老人は種を播かなかったのに、
収穫を得られるはずがない。
この老人は、そのことに気づいていない。



通行人は驚きました。「収穫ですって？ 作物はどこにも見当たりませんが…」

老人はその質問には答えず、作業を続けました。

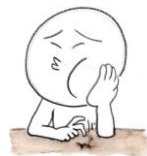
しかし、老人は種をまかなかったのに、いくら作業に励もうと、収穫を得られるはずがありません。“種をまかなければ収穫は得られない”単純明快な原理ですが、この老人はそのことに気づいていないのです。

「種まきと収穫の法則」

この老人のような人は世の中に多い。

行動を起こしていないのに
結果を望む人

恵まれている人をうらやみ、
「世の中は不公平だ」と
文句を言っている人



馬鹿げた話だと思うかもしれませんが、この老人のような人は世の中にたくさん存在します。

種まきと収穫の法則を知らない人は、行動も起こしていないのにいい結果を期待する人だったり、恵まれている人をうらやみ「世の中が不公平だ」と文句を言っている人だったりします。結果を出している人は、あなたの知らないところで、ちゃんと種まきをしているんです。

「種まきと収穫の法則」

自分の進路・やりたいことが見つからない

↓
見つけるための行動を
起こしているか？
誰かが教えてくれると
思っていないか？



何もアクションを起こしていないのに、「自分のやりたいことが見つからない」だとか言っている人か？ そこそこの取組で、全然結果がついてこないと思いませんか？

「種まきと収穫の法則」

プランド・ハプンスタンス理論

Planned happenstance
(計画された偶発性理論)

行動することで、知識・経験・出会いという点を増やし、偶然や予期せぬ出来事の確率を高めてキャリアをつくっていく。

「種まきと収穫の法則」

「何となく」の方向で十分
“とりあえずやってみる”

合っていないくても、失敗でも「結果」として判明すれば収穫ゼロではない。



いろんな挑戦＝「経験」

コンテスト

3年生 高校生として鍛える時期

「二人の商人」

「二人の商人」

A国の商人とB国の商人が二人で一緒に峠道を登っていた。

焼けつく暑さの中
険しい山道を



スタンフォード大学の克蘭ボルツ教授の理論でプランド・ハプンスタンス理論というのがあります。キャリアの約8割は予期せぬ偶然の出来事によって形成されるというものです。

大切なのは、ただ偶然の出会いを待つのではなく、出会うために行動するということです。

予測不可能なこれからの時代においては、十分な準備や覚悟がないと動けないというのは何もできないことを意味します。

「とりあえずやってみる」その結果うまくいかなかったり、思ったのと違ったなという「結果」が出れば、それも価値のあること。ゼロではない。

こんな言葉があります。

「目の前に橋があれば、まず渡れ」

是非、夏にもいろいろな機会が転がっているので、挑戦してほしい。

最後に3年生。この夏は「鍛える」時期です。
「二人の商人」という寓話をお話ししましょう。

昔、A国の商人とB国の商人が、二人で一緒に峠道を登っていました。

焼けつくような暑さの中、重い商品を山ほど背負って険しい坂を登っていくのは、本当に大変なことでした。

「二人の商人」

A国の商人

「この山がもう少し低いといいんですがね。こうも険しいといっそ行商をやめて帰ってしまいたくなります」

「二人の商人」

B国の商人

「私はこの山が、もっともっと、いや10倍も高くなってくればありがたい。そうすれば、たいていの商人はみな途中で帰るので、一人で山の彼方で商売ができるのに」

「二人の商人」

皆さんは、どちらの商人のマインドでしょうか？

大変でやりがいのある山に挑戦し続けることができることは、桜高生の恵まれた環境

まとめ

「大きな岩と小さな岩」

大切なものから優先順位を

「種まきと収穫の法則」

偶然の出会いを取りに行く

「二人の商人」

挑戦できる環境に喜びを

途中、木陰に荷物を下して休んでいるとA国の商人が汗を拭きながら嘆きます。

「この山がもう少し低いといいんですがね。こうも険しい坂を登るんでは、いっそ行商をやめて、帰ってしまいたくなりますよ」

これを聞いたB国の商人はにっこり笑って、こう言います。

「あなたが登るのも私が登るのもつらいのは同じことです。だけど私は、この山がもっともっと、いや10倍も高くなってくればありがたいと思います。そうすれば、たいていの商人は途中で帰るでしょう。そのときこそ私は一人で山の彼方へ行って思う存分商売をしてみたいと思います」

皆さんのマインドはどちらの商人に近いでしょうか？

大変だからこそやりがいがある。それぞれの目指す高い山に挑戦し続けることができるのは、この高校には安きに流されずに頑張っている仲間がたくさんいる環境だからです。

あきらめる人、楽なことばかり追い求める人ばかりでは、そうあり続けるのは難しいことです。それはこの先にどんな進学先を目指すのかということとも関係しますね。

まとめます。

「優先順位をつけないと大切なことをする時間が失われること」

「種まきをしないのに収穫を期待しない」

「高い目標に挑戦できることを喜ぶ」といったお話でした。是非、未来につながる夏となるよう期待しています。